

町工場開発品に熱視線

高崎市の町工場が開発した鳥獣害対策装置「ユーソニック」に熱い視線が注がれている。超音波や高音を出して動物を追い払う製品で、大手企業からも引き合いが絶えない。シカが電車で衝突する事故を防いだり、イノシシやカラスによる被害を減らしたりと効果を上げている。

高崎

高崎市矢島町の町工場「モハラテクニカ」が開発した製品は、スピーカーから動物が嫌がる音を出す。人間には聞こえないが、動物には「鋭利な効果がある」といいます。注目を集めたのは、心優しい鉄道マンらと作ったシカ用の「踏切」だ。

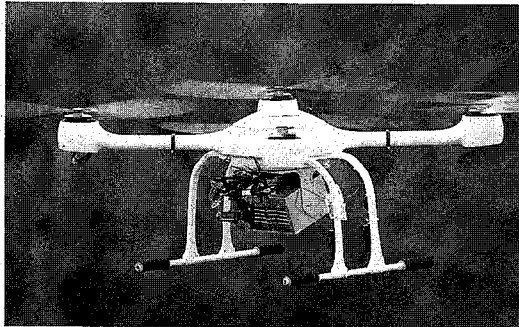


近鉄東青山駅付近の「シカ踏切」でユーソニックを検査する係員＝2017年5月、近鉄提供

「音」で追い払う 鳥獣害対策装置「ユーソニック」

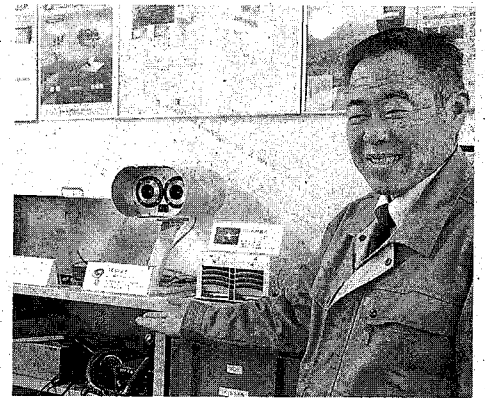
近鉄はこれまでシカの侵入防止ロープを張ったり、シカが嫌う赤色LED灯を付けたりしたが効果はなかった。大阪線東青山駅（津市）付近の山あい約1キロの区間でも、シカと電車の接触事故が年間20件近くあった。そこで逆転の発想。時間帯を区切り、シカにも安全に線路を横断してもらうと考えた。

線路沿いに高さ2メートルのネットを張り巡らし、3カ所ドローン（赤城山で実験をした）モハラテクニカ提供



ユーソニックを装着したドローン。赤城山で実験をしたモハラテクニカ提供

近鉄 シカ対策 トヨタ 新車駐車場で



ユーソニックを紹介する茂原純一社長＝高崎市矢島町

「安全輸送とともに、シカと共存できて大変うれしい」と導入に奔走した近鉄施設部の匹田雄史さん（49）。装置を作ったモハラテクニカは、精密板金加工を得意とする創業約60年、従業員36人の会社。取引先の要望に添える仕事が多い中で「自社製品に挑戦しよう」と茂原純一社長（59）らが2004年から開発に取り組んだ。

全国的な課題で、身近な親戚も困っている農作物の鳥獣被害に挑もうと狙いを定めた。開発は試行錯誤。音を出して追い払う案は早期に思いついたが、動物によって嫌な音に違いがある。ある音はイノシシに効いたのにシカに効かなかった。装置の上にカラスが平然ととまった時は「悔しかった」。沼田の牧場でシカ、高崎の群馬の森ではカラス相手に試し続けた。

08年に販売開始。意外にも農業分野以外で反応があった。イノシシによるグリーン（掘り起こし）に悩む全国のゴルフ場から注文が相次いだ。カラスのいたずらに悩むトヨタは愛知県内などの新車の巨大駐車場で次々と設置。東京電力も福島県浪江町で昨秋、ドローンに装置をつけてイノシシを追い払う実証試験をした。

モハラテクニカによると、装置の効果は環境に左右される。完全に防げなくても被害を軽減したデータを示し、顧客に説明しているという。

装置の売り上げは現在、全体の5%にあたる約3千万円。「大ヒットとまではいかないが、唯一の自社製品だけにコソコソと開発を進めて大事に育てたい」と茂原社長。ドローンに搭載した装置の実用化を目指し、テストも重ねる。問い合わせは同社（027・352・1700）。（張春輝）